

生産技術教育にどうとりくむか



科学的、合理的精神をつちかうための教育——生産技術教育をどう進めるかという目標をたて、職業・家庭科の独立した分科会がもたれたのは、第四次集会からである。そしてさらに第六次集会からは「家庭科」を切り離して「職業科」の部会が独立した。

このようにして四次にわたる全国集会での教科の研究を通して、孤立した技術主義におちいついていく傾向がないではなかったが、教科内容を高め、教育の方法を改め、科学的・合理的精神をつちかう教育の教科にしていくなか、研究をつみかさねていくという点では、まだ不十分ではあったし、これは第八次集会でひき続いて研究、発展させていかなければならない課題である。特に第八次集会には、教育課程の改訂、技術科の設置という新たな事態に対処していく問題が同時に与えられている。

これまでの研究会で主として話しあわれたことは、職業科教育の推進をはばむ障害とその原因をとりのぞくことが中心問題であった。その原因と除去の方法についての見解は参加者によってまちまちであったが、おもな源が学習指導要領にあるという点では一致していた。この学習指導要領の欠かぬや不合理を認めながらも、この教科の実践に欠くことができない施設設備の整備に必要な財政的援助と、それともなう指導行政による統制をうけ、またこの教科の

前近代的な内容や方法の有用性を認めているおくれた地域や産業の側からの、就職という間接的な圧力によって、この学習指導要領に従うことを余儀なくされていた。

このような条件のなかで、この教科の実践をさまたげる切実な問題ととりくみ、その原因をつきとめてそれを整理し、一般化し、そのプロセスを通してこの教科の目標や役割を明らかにしていく研究を推進してきた。これまで話しあわれたことは、次のことである。

- 1、社会からの要求をどのようにとらえて、教育の課題を導きだすか。

家事労働や就職の問題をひかえている子どもたちにとって、職業科の教育が役に立つということは大切である。この役に立つということは、将来のびる可能性を備えさせ、職場の条件が変り、新しい技術や産業組織が生み出されても、容易にそれに適応しそれを発展させる能力をもった人間をつくり出すことである。子どもたちを盲目的に働かせたり、技術の経験的習熟の訓練だけを行わせることではない。物事をすじみちをたてて考え、すなおに見、行動することをお教えることが大切で、職業科では、理科と社会科の基本を系統的に学習させ、それを生産に応用することを学ばせるものである。

- 2、子どもたちを全面的に成長させるために、他教科との関連を密接にすること。

□自主的教育研究をすすめるために

有効な技術教育を進めるために、理科や数学との関連で何を補うたらいいか。また技術科で何を補充したらよいか、(例えば測定法、画法幾何、機構、材料の物理的、化学的性質の学習など)

教材の配列や組合せが適当であるか。たとえば、機械要素を、それ自体きり離して、名称や性質を教えた方がよいのか(改訂案)、あるいはこれを改めて、運動や構造と関連させて指導した方がよいのか。

実習例が適切であるか。掲げられた学習内容を学ぶためには十分な実習例が多いのではないか。実生活の中で得られるものに重点をおきすぎではないか。

理論的学習をとまなわれないもの、理論的学習を行うとすれば高度にすぎないの困難なものはないか。前の例は木工作業、後の例はラジオで、大工やラジオ屋の養成におわる心配はないか。

3、総合実習は実施可能であるか。この実施を可能にするためには、十分な計画をたて、施設、設備、材料、教師陣を十分にとのえる必要がある。条件が十分でない場合は、生徒を教師の手から離し、単なる生産実習、現場作業におわる危険がないか。

4、男子向、女子向の二つのコースを設け、さらに進学、就職の選択コースを設けることは、改訂の基本方針にのべられているような急速な変化に対応して国民全体の文化的水準を高めることと矛盾するものではないか。これまでも、コース別編成がどんな弊害を生んでいるかについて検討したい。この問題と、前に掲げた問題とあわせて、科学技術教育の振興という重要文教政策の本質を検討し、みきわめ、本ものの科学技術教育を振興させる方法について検討したい。

5、この教科を進める上で障害になるものは何か。この教科を実施する上で当面こまる問題は、設備と、教師であり、特に適任の教師の不足が切実である。

現在の教師のスタッフでは技術科の実施が困難であることや、現在の職・家教師の身分の保障ということから、この教科を旧のものにもどすようなことは絶対にさけなければならぬ。職・家教師の再教育のために、長期にわたって(少くとも一カ年)研修するだけの方策を当局に要求すべきである。

また、設備がないために実習が不可能な場合、あるいは教師の実技が十分でない場合には、生産の実際は見学等で補い、理論的学習に重点をおき、この教科を実施に移す必要があるのではないだろうか。

国民の文化的水準、科学技術の水準を高め、将来の変化に適応していくだけの能力を子どもたちに備えさせていくためには、この技術科において、これまで一番欠けていた技術的理論的学習を十分に与えていくことが必要である。技術教育を、職人主義、手工業主義からまもっていくために、他教科、特に理科、数学と緊密にけんけいすることが大切である。したがって、この教科の実施を支部集会や全国集会に持ちよる前に、一つの学校の中で、同じ職場の中で、他教科の教師たちと協力して研究組織をつくり、一人一人の子どもたちを全面的に発達させるために、各教科がどんな役割をもち、その中で技術科がどんな大切な役割をはたすかを討議し、研究しておくことが、何よりも、基本的に大切なことである。

(長谷川 淳)